

Pātañjalayogaśāstra

その二：「ヨーガ」を統合した哲学書

これまでの話

色々なヨーガ

PYŚ が現れるまでに

- 色々なヨーガがすでにあった
 - ブッダの修行：yogāvacara, yogācāra
 - 体系化される仏教のヨーガ: Yogācārabhūmi やおそらくは多くの仏教ヨーガマニュアル
 - ウパニシャッドに現れるヨーガ: prāṇāyāma, pratyāhāra, dhāraṇā, dhyāna, samādhi などのキーワード
 - 『マハーバーラタ』や『バガヴァッドギーター』のヨーガ: karmayoga, jñānayoga, bhaktiyoga, etc....
 - ヒラニヤガルバのヨーガ
 - etc.

色々な哲学潮流

例えば

- サーンキヤ
- ヴァイシェーシカ
- adhyātma 哲学* (ウパニシャッドに表明される哲学, ただしヴェーダーンタとは呼べない)
- 仏教アビダルマの哲学
- 文法家の哲学

『パータンジャラヨーガシャーストラ』とは

Yogasūtra + Yogabhāṣya

- いわゆる『ヨーガーストラ』と『ヨーガバーシュヤ』を合わせたもの
- おそらく両者の作者は同一ではない
- 『ヨーガーストラ』の方がやや前に集められた
- ストラの中にはバーシュヤ作者の作ったものも？
- 『ヨーガバーシュヤ』をつけることによって一つの著作として完成
- どちらも作者・年代不明

そこで今回は...

『パータンジャラヨーガシャーストラ』はその作者が、色々なヨーガを統合するヨーガを作る試みとしての作品、さらに、その過程で新たな哲学も誕生した、という視点から

統合されたヨーガ

まずその要素

どこから材料が来たか

1. 仏教ヨーガ
2. Adhyātma ヨーガ, もしくはヒラニヤガルバのヨーガ
3. ヨーガの諸潮流

1. 仏教的ヨーガの要素

yogaś cittavṛttnirodhaḥ

これは仏教的

- まず citta という言葉。これは基本的に仏教の外ではあまり使われない。バラモン・ヒンドゥー的な用語だと manas を使う傾向が強い
- cittavṛtti もバラモン・ヒンドゥー系の著作で使われるときは基本、PYŚ を前提。その外で使われることはほぼない。しかし仏教文献では普通
- ヨーガが心の動きを抑制することというのがかなり仏教的

他にも...

仏教から来たコンセプトが多数

- vitarka
- vicāra
- savitarka, nirvitarka, savicāra, nirvicāra...
- maitrī-karuṇā-muditôpekṣā これはそのまま仏教の四無量（慈悲喜捨）
- samāpatti
- sabīja-, nirbījasamādhi
- dharmamegha
- saṃyama
- samāpatti
- bhūmi

2. ヒラニヤガルバのヨーガ (adhyātma のヨーガ)

主に8支ヨーガ

2.28 以降

- āsana
- prāṇāyāma
- pratyāhāra
- dhāraṇā
- dhyāna
- samādhi
- 2.53 に現れる manas, 2.54 に現れる saṃyoga という単語がヒント

1. その他の諸「ヨーガ」

その他の要素

ヴェーダ的バックグラウンド, 一神教的ヒンドゥー教, 魔術師的ヨーガ

- tapas
- svādhyāya
- īśvarapraṇidhāna
- 超能力を生み出す saṃyama
- 3.18 以降？

統合された哲学

1. サーンキヤ

もちろんよく言われるようサーンキヤはPYŚの重要な位置を でも何がサーンキヤ？

- 目撃者と展開するものを立てる
 - 多くの呼び方あり
 - puruṣa + prakṛti
 - puruṣa + pradhāna
 - プルシャの別名 draṣṭṛ
 - プルシャの別名 citi/citiśakti (後述の文法学を踏まえた解釈を参照)
- 展開説 (微妙に『サーンキヤカーリカー』のそれと異なる)
- 3グナ説
- tanmātra の採用
- (展開説自体はサーンキヤでなくとも採用することあり。しかし二元論, 3グナ説, sūkṣma/tanmātra/linga はサーンキヤ独特)

2. 文法学派の哲学

前回触れたように...

Pātañjala = パタンジャリを受け継ぐ？

- 思想的な側面では
- 前回も触れたように文法分析を前提にしたサーンキヤの二元論理解
 - 動詞語根（行為そのもの）は時間・場所で限定されない
- スポータ説
 - 3.17

3. その他のバラモン・ヒンドゥー系の 哲学（Adhyātma 哲学？有神論者）

Adhyātma 哲学とは

- マハーバーラタの Mokṣadharmā や Anuśāsana に記録されるさまざまな思想
- サーンキヤ的でもあり，ウパニシャッド的でもあり
 - サーンキヤのようにも見えるが鍵になる要素を欠くことが多い
- 中期から後期のウパニシャッド（ヴェーダーンタと呼ばない）
- pratyāhāra や dhāraṇā はこの辺を前提にしていると考えられる？

有神論

1.23-27

- 主宰神を前提
- 祈ることで振り向いてもらい助けてもらう
 - 仏教だと阿弥陀信仰, 観音信仰, シヴァ教のマントラ, などなど
 - ミトラ教などのペルシャ系の宗教とも関連?
- 神の存在証明
 - 仏教のブツダの全知者性の証明との関わり?
- 聖音 om との関連 (ウパニシャツド的, Adhyātma 的)

おまけに:ヴァイシェーシカ学派とニヤーヤ学派の

ヨーガの定義と知覚論

- **indriyamano 'rthasannikarṣāt** sukhaduḥkhe| tadanārambha ātmasthe manasi saśarīrasya sukhaduḥkhābhāvaḥ prāṇamanovinigrahāpekṣaḥ saṃyogaḥ
- **indriyārthasannikarṣo**tpannam jñānam avyapadeśyam avyabhicāri vyavasāyātmakam pratyakṣam (Nyāyasūtra 1.1.4)
- 感覚器官と（意識と）対象の接触から...

4. 仏教哲学 (逆さまにして)

仏教ヨーガとの関連はすでに

ここでは世界観

- 展開説と認識論において強く仏教からの影響とライバル視
- 仏教には Dignāga と Dharmakīrti という偉大な思想家
 - 彼らが多くの力を割いたのが認識論

やや脱線して認識論の話

インド哲学は認識論が大好き

誰もが意見を持つ

- 知識根拠 pramāṇa
- 最大6
- 知覚 pratyakṣa, 推論 anumāna, 言語 śabda/āgama/āptavacana, 演繹 arthāpatti, 比較 upamāna, 非存在 abhāva
- 学派によって認める数が異なる
 - 最小はローカーヤタの知覚オンリー
 - 最大はミーマーンサー派の一部の上全て
 - 大体最初の三つで終わることが多いが、仏教徒は基本最初の二つだけ

ほぼ共通して議論されるのが

特殊と普遍

- 知識根拠の対象は特殊か普遍かあるいはその双方か
- PYŚ は基本的に仏教的立場 (Dignāga?) の知覚は特殊を対象にし、推論は普遍を対象とする、を取る
- 知識結果に関しては仏教説を前提にしつつもそれを否定、批判する 4.19-20

Vasubandhu Connection

Vasubandhu とは？

漢訳だと世親

- Uddyana の人
- 唯識と呼ばれたり経量部と呼ばれたり
- 『俱舍論』が代表作
- ほぼ直接 PYS で批判される (Bhāṣya on 3.13)
- この辺りはかなり難解な哲学議論
 - 物質の展開, 時間についての議論
 - おそらくここでの最も重要な結論は
 - 仏教との dharma は実在, dharmin は非実在という立場との絡みで
 - PYS の立場は dharmin が実在で dharma は非実在

哲学的に独自の部分

おそらく第4章は独自の立場から唱えられた解
脱論（似たものはよそに見ない）

結局 PYS って？

おそらく、いろいろなヨーガのあることに気がついた作者がそれらを統合することを思いついた。

そしてそのために新たな哲学的枠組みをもいろいろ
な哲学から要素を取りつつ独自の哲学を構築した

果たしてそれに成功したのか？

つながりのストーリーがある？

- テーマの変わり目に注目
- manas という語が出てくるストーリーに注目
- 「ヨーガ派」という呼称は非常に遅い
- 哲学派としては長く Pātañjala と呼ばれる